

大念佛

No.50

発行／融通念佛宗総本山
大念佛寺
大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026



融通念佛宗管長
総本山大念佛寺第六十六世法主
倍 巖 良 舜



「春、海の如し」

新年あけましておめでとうござ
います。
平成も早や二十年を迎えること
となりました。正月、特に元旦は
やはり特別の日で、人それぞれに
感慨深いものがあるかと思ひます。
私の母は伝統とか「しきたり」
を重んじる人で正月三ヶ日は本堂
の御本尊、元祖大師、中祖上人、
自坊の代々上人、観音堂、毘沙門

堂の諸仏、神棚のいろんな神様、
自分の親をはじめ御先祖さま等々
に初水の御供から御餅を焼いて入
れた御雑煮、黒まめ、ごぼう等、
まさに「いますが如く」丁寧に御
供を致しました。そして家族もま
た一人一人朱ぬりの御膳に御雑煮
と梅干しと塩昆布を入れた大福茶、
黒まめ、ごぼう等がついておりま
す。そして全員そろったところで食事

作法を行い、新年の挨拶をしてや
つと御雑煮を頂くことになりま
す。御供の準備段階から御雑煮が頂
けるまでたつぷり二時間はかか
ったと思ひます。「あまり丁寧すぎ
やないの」と思う面と「一年に一
度の正月やからこんなもんかあ
」と思う面とあって、ずっとこのし
きたりは母が亡くなる昭和六十
三年頃まで続いておりました。今
少し簡略化されてはいますが基本
的にはこの方法で新年を迎えてお
ります。皆様の御家でも正月はそ
れぞれのしきたりがあるかと思
ひます。

とにかく正月は一年の出発点で
すので「どうか今年も無事平穏で
ありますように」と皆祈り願うわ
けです。しかし現実はなかなかそ
も絶望しない。
吉とでもおごらない。凶とでも
も絶望しない。
とにかくお釈迦さんも人生は四
苦八苦だと説かれています。四苦
は皆さんご承知の通り生老病死で
ありますが残りの四つは愛別離苦
(愛する者と別れる苦)・怨憎会
苦(憎い者と出会う苦)・求不得
苦(求めても得られない苦)・五
陰盛苦(現実を構成する五つの要素
すなわち迷いの世界として存在す
る一切は苦である)以上で八苦です。
要するに身体的な「身苦」即ち
「苦」と、精神的な「心苦」即ち
「憂」に分けられます。なお衆と
思っていることも諸行無常で、衆
が壊れる時は苦であります。この
世の存在物は実体があるように見
えるが実際は刹那ごとに生滅をく

の通りには
いきません。
鎌倉時代
の禅僧で『沙
石集』の著
者である無
住道暁とい
う方が「な
に事もよろ
こびず、ま
た憂(うれ)じよ功德、
黒闇つれて
あるけば」
とおっしゃ
っています。
我々は幸福
を運ぶ功德
天と不幸を
運ぶ暗黒天
をいつも連
れて歩いて
いるのです。
吉凶過福は
あざなえる
繩の如しで
あります。

り返しているだけだという認識が
できれば、今日こうしてあること
今こうしてあること、このあたり
まえのことがすばらしいことだと
分かるのです。
生老病死は総論としては皆な承
知しています。しかし特に死につ
いてはこれは他の人のことで自分
の死はまだまだ先だと思つていま
死はできるだけ遠くへ追いやつて
薄氷をふむような生にしがみつこ
うとしている。言うなれば死を忘
れた生であり、そのような生は軽
くいいかげんに扱われます。
生は命であり、今ある自分の命
は深い縁によつて生まれてきた命
であるからこそ大事にしなければ
なりません。「自分の命が大事だ」
みんな自分の命が大事だといふこ
とは、ひとさまの命もみんな大事
なんだということです。
年頭にあたって平素あまり考え
ない「命」とか「無常」のことを
考えるのも、豊かな心の養いになり、
皆さまの大事な一日に命を与える
ことになるのです。

初詣
大晦日除夜鐘つき法要
年末年始は本山へ
融通念佛宗
総本山 大念佛寺

百万遍大数珠くりと融通念仏会

融通念仏宗務総長
総本山大念佛寺寺務総長
吉村 暲 英

一、五、九の各月十六日には百万遍大数珠くりが行われます。百万遍というのは、融通の原理によれば、百人がそれぞれ一遍ずつ念仏を称えるだけで「100×100=10,000」で一百万遍の念仏となる。百遍にふやすと「100×100=10,000,000」で、すぐに百万遍の念仏となる。このように同行衆が増えれば二乗数が増えるので飛躍的に念仏は増大し、そこに遍数が増えれば億百万遍も容易なこととなり、念仏の功德も限りなく増大することを意味します。本堂外陣いっばいに広げられた大数珠を参詣者が念仏を称えながら繰るものですが、数珠が大きくなり、四隅に取り付けた滑車を回してその動作を助けます。



百万遍大数珠くり

前の数珠は元禄十三（一七〇〇）年、第四十六世大通上人が五千四百人の寄進者の力を得て作成されましたが、明治三十一年の火災で消失し、現在の数珠は明治三十六年六月、第五十六世得善大僧正によって、欒材を使用し再成されたものです。阿弥陀仏を表す母珠は直径十五センチの球形で、一部をくり抜きその中に金具を施し、金銅の阿弥陀仏を安置し、くり抜いた面に格太壺具で蓋をえています。成珠（本体の珠）は直径七・五センチの球形で、つなぎ部分の両端を扁平にして六センチ中になっており、その数は千二百個あります。珠の中央に南無阿弥陀仏、その下に戒名（または法名）を、戒名の右に寄進者の住所、左に姓名が陰刻されています。

得善大僧正は大通上人の故事に倣い、多くの寄進者を募り、その志す諸霊を彫られたのです。この大数珠を繰るたびに、先人の篤い菩提心に触れる気がして感動を覚えます。融通念仏会は具さには融通大念仏会といい、略して融通会または大念仏会ともいいます。これは大勢がともに融通念仏を唱和する会合のことです。久しく途絶えていましたが、昨年九月に復活されました。今後、百万遍大数珠くりの前行として、毎年三回行われることになりました。



融通念仏会

この法会の最初は天治二（一一二五）年六月、良忍上人五十四歳のとき、宮中に召され、鳥羽上皇をはじめ女院百官ごとくこの法会に参集したのが初まりです。それはどのような形で行われていたのかは不明ですが、声明に秀でた上人は美しい曲調で经文や念仏を誦し、参集の人びとを大いに魅了されたことでしょうか。このとき必ず行われたのが、結縁者（参加者）の名前を帳簿（名帳または勧進帳という）に記入すること、皆ともどもに念仏を唱和することでした。その後、代々にわたってこれを伝えてきました。現行の大念佛寺の融通念仏会は、名帳記入をし、在家勤行式に則っておつとめをし、元祖大師の御法語を奉読し、日課百遍を唱和するという形で行っています。皆さまのご参詣を心よりお待ちしております。

夏休み子供寺子屋修行体験

融通念仏宗別時念仏の会が主催する「夏休み子供寺子屋修行体験」（融通念仏宗後援）を七月三十、三十一日の両日、宇陀市菟田野区の補陀寺で行いました。子供たちにも「念仏」の素晴らしさを実感してもらおうと、子供の念仏行体験を初めて企画しました。



今は理性や知性第一で、感性や感情が昔からすれば希薄になりがちです。よって、体で「いのちの大切さ」や「いのちに感謝」する機会になればということ。さらに目に見えないものをおろそかにされがちな現代において、志・思いやり・誠実さなどを改めて大切にできる場になれば幸いと考えました。小学校四年生から中学校三年生までの子供達三十余名が参加、念仏行中心にレクレーション、流しそらめんなどを楽しみました。



今回その参加者のお母さんが、念仏行を通しての子供の様子に感動し、感想文を書いてくださいました。 栗山 康永

この夏、ご縁あって、長男が子供寺子屋修行に参加させていただきました。 一泊二日の日程の中には、川遊びやそらめん流し、竹細工作りなど、お楽しみも沢山企画されたうえに勿論、仏教やお念仏についてのお話もあるとのこと。そろそろ人の道について考えさせてみたく勧めてみると、抵抗なく「行ってみるわ」との返答。勧めてみたものの意外な返答に親やおばあちゃん戸惑うような有様でした。 当日は、大念佛寺に集合、顔合わせのあとすぐに、一般の人は足をふみこめなさいという一段高いところにあげていただき、初めてのお念仏。普段の生活でも参観でもみたことのない緊張した面もちの息子に、それからの丸一日を心配したり、期待したりでした。大念佛寺のマイクロパスに、参加した子供と同じくらしい数のお世話係のお坊様が一緒に乗ってくださいました。 次の日、帰宅した息子の様子は

いたって普通。「おもしろかった」と色々とお楽しみの企画を一通り説明したあとに、「これ、もらってん」と手首にはめる小さなお数珠を嬉しそうに左手にはめ「そうや、お念仏唱えやな」と。お仏壇の前に座り、蠟燭とお線香に火を灯し、おりんをならしたあとと背筋を伸ばして般若心経を唱え始めました。紙に書いたものをみながら、割と覚えていたもんだなと感心しました。

ところが、驚きはそれからです。息子は二ヶ月以上すぎた今も毎日、仏壇の前に座りお念仏を唱えています。学校へ行く時以外は左手首にお数珠をつけて。毎日、毎日です。一ヶ月たったころには、般若心経も全て覚えて、紙をみることもなくなっていました。

その様子を褒めながら、なぜお念仏を唱える気持ちになるのかと問うてみたことがあります。「訳などない」と、答える息子にまた教えられました。その無心にお念仏を唱えることに意味があるのだと何か救いを求めるのではなく、欲を満たすためではなく無心に坐してお念仏を唱える、そのことで仏様に近づけるのだと。 十一歳の息子の人生は始まったばかり、これから多くの困難に立ち向かうことですが、無心になることを覚えた息子は、きっと息子らしく静かに困難と同化しながら生きてくれることでしょう。 この夏、お陰様で一回り大きくなった息子は親にもおばあちゃんにも喜びを蒔いてくれ、ご先祖様も仏様もよろこんでくださっていることだと信じています。 このような機会が、なるべく多くの子供たちに与えられることを願っております。 高山 公仁子 合掌

「自らを燈として生きよ」

修正会に臨むところ

お釈迦様は「おのれ一人」或いは「たった一人の自分」「たった一人の自分の力」ということを繰り返しておっしゃっています。

お釈迦様が説かれたお言葉の中に「自らを燈とし、自らを依り所として、他を依り所とせず」という句(法句経)があります。

親・夫や妻・子供・財産・地位や名誉・友達に頼る。私たちはとかく人や物に頼りたがります。

ところがそうした人や物はいつまでも自分と一緒に付いていくというわけではなく、夫を失う妻・妻を失う夫・子供に先立たれる親・財産を失う人・社長の席を突然追われる人など、そういう人は沢山います。

こうした不確かなものが総て失われるという暗闇の人生にあっては決して自分という燈を失ってはいけない、それを高く掲げて自らの歩むべき道を照らし「一人」毅然として歩いて行きたいと、お釈迦様はおっしゃっています。



さてここで、東大阪市に在住の熱心なお檀家を紹介いたします。ここにもありました、生仏一如(我々衆生は本来仏であり水と氷のようなもので、本来が一つである)の合掌の姿が。

最近の世の中を見ますと、親子・夫婦・隣近所などの間で起きるいじめや虐待等の争い事や、目を背けたくなるような凶悪な犯罪が日常茶飯事に繰り返されています。これらの対策として、政府をはじめ各関係機関の方々には教育を基本から見直すべく日夜努力しておられる事ではありますが、何を差し置いても重要なことは、昔から励行されている「ご先祖様を崇拜し親の声に耳を傾け親を大切にすること」

磯田 時雄

「御仏様に守られて」

氏川 明美

「貴方は幸せですか」と、問われたら声を大にして「私は幸せです」って言いたい。

そう言えるのは、何ととっても神仏のご加護のもと、ご先祖様ならびに祖父母・父母といった御一統の方々に見守って頂いている事が大と考えられ、大変有り難いことだと常に感謝しております。

「貴方は幸せですか」と、問われたら声を大にして「私は幸せです」って言いたい。

「貴方は幸せですか」と、問われたら声を大にして「私は幸せです」って言いたい。

ということを念頭に於いて、日々の諸行動を起こすことが大切だと思います。

幸いなことに私は、良きご先祖様とご縁を結んで頂き「上を見れば切りがない」良き家族に恵まれ又素晴らしい友達・近隣の方々に囲まれた毎日を楽しく、且つ健康で過ごさせて頂いております。

これらのご恩に報いるため、何事に於いても常に感謝し、これからも尚一層信仰に励み家族の平和と繁栄を願って止みません。

こうしたことを子供夫婦にも十分に伝え、末永く幸せを祈る今日この頃です。



ける「唯心の浄土、己身の弥陀」、その他山門、圓通殿など現存する諸堂にも中国様式の黄檗風が色濃く反映されている。」との内容でした。

高福寺の後は平等院に参詣しました。先ごろ修復されたという定朝作阿弥陀如来像の尊顔を拝し、栄華を究めた平安貴族、藤原頼通の浄土に対する篤い願生心に思いを馳せました。

山田 陽道



「手を合わす心」

松寶寺住職 澤田 善秀

もう十年以上前のことになる。生まれて初めて友人たちと富士山に登ったときのことだ。五合目を夕方に出発した私は、途中仮眠をとりながら翌朝四時頃に山頂にたどり着いた。

夏とはいえ、三千メートルを越える高地に体は凍え、空気の薄さに頭はフラフラになりながらもただひたすら太陽を待ち続けた。その時に仰いだ御来光の素晴らしさは、恐らく一生忘れることはできないであろう。かつて見たことも無い一瞬のきらめきは、ある意味神々しくさえあった。気が付けば、自分の周りにいる沢山の登山家たちが、朝日に向かい手を合わせていたのを覚えている。

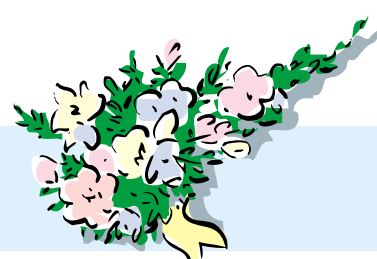
もう一つ、今までに見た最も美しい夕日は、まだ私が二十代の頃一人旅のスペインはアンダルシア地方でバスの車窓から観た、荒涼とした大地に沈み行く燃えるような太陽である。

情熱的な国民性を思わせる深紅の光が、最後の輝きを持って、漆黒の闇が空を覆いつくす直前の空を群青に染め上げていた。富士山の御来光とアンダルシアの夕陽、どちらの光景も一生忘れることのできないものである。しかし、そこには朝陽と夕陽という明確な違い以外に、もっと大きな違いが存在している。

アンダルシアの夕陽は多分に、異郷を旅することで感ずるノスタルジアが感動の底辺に流れていたように思う。美しさに感動はするが、手を合わせるということは無かった。対して富士山の御来光は、寒さや高山病と戦いながら頂上に登りつめた後に得られる感動。例えば、長い苦行の末に得られた悟りの境地に似ているのではないだろうか。

そこには生まれ変わった新しい自分があり、清らかな心で御来光を仰がせていただいた。だからこそ、自然と神々しい気持ちになり、素直に朝陽に手を合わせる事ができたのである。一体、私たちは輩段の生活の中で、自然に手を合わせることがどの位あるだろう。神社仏閣の前ならともかく、いやそれすら風景の一部として、前を素通りしていることが多いのではないか。

新玉の年を迎え、心も新たに清らかな気持ちで寺社に詣でるのであるならば、どうかその心を常々忘れること無くこの一年をお過ごしいただきたいと願う次第である。



『宇治萬福寺での参禅』

「教学研究所研修会報告」

お茶どころ、宇治の萬福寺は禅宗の一派黄檗宗の大本山。

十月三十一日今年度の教学研究所主催研修会の一行二十数名が同寺を訪れ、静かな山内で講話を聴聞し、普茶料理を戴き、参禅のひとときを過ごしました。

講話はまず黄檗宗教学部長様より隠元禪師の来朝の経緯や、華僑の人々が施主となっているという萬福寺での法要の様子についてお

聞かせいただきました。隠元禪師が日本の禅宗に与えた影響力はとても大きく、それが臨濟・曹洞二宗の復興運動にも及んだようです。

また私達が日常よく口にしている有名な隠元豆だけでなく、西瓜なども禅師の将来品だと言われているそうです。

次に徳融寺ご住職の阿波谷俊宏師よりご講義をいただきました。それは「融通念佛宗の再興大通上

まず山門に禁碑を立て山内の風紀を正し、浄財を勧進して諸堂を整えた。主著『融通圓門章』にお

末寺巡礼③ 神戸・茨木の寺々

雷声寺

神戸市中央区葺合町東山一

神戸の金比羅山雷声寺は兵庫県下唯一の末寺で、開山は昭和十年、若いお寺である。ご本尊は讃岐琴平宮より浜田雷声師請来の金毘羅大権現。明治六年廃仏毀釈の嵐に遭遇するも、檀家に守られ、縁あって昭和九年五月船舶・海運業守護祈願に相応しい神戸のこの地に遷座される。(写真参照)



雷声寺 船舶・海運業守護祈願 遷座

開山上人雷声和尚は、境内顕彰碑に以下のように紹介されている。『明治六年愛媛県生名島に生を受け、十六歳神戸にて国際船員となる。欧州船タイタニック号沈没のニュースは、国内船員仲間の悲しい事故の記憶を呼び起こし、以降、政治課題に着手。次々と生活改善の成果をあげ、大正十年日本海員組合長に就任。安倍磯雄、鈴木文治

等日本有数の労働運動家と親交を保ち、世界労働会議にも海員代表として出席活躍。昭和に入り一転組合を引退、僧侶となる。昭和九年讃岐琴平宮より金毘羅大権現を奉迎し、船員供養・航路安全・水難防止として日本海運業発展を祈願して、翌年、六甲おもて神戸布引のこの地に雷声寺を開山。浜田国太郎雷声和尚、海上関係者十万人から慈父として仰がれ、八十五歳の生涯を成就し昭和三十三年三月遷化。』



八大龍王

宝池寺

茨木市忍頂寺三〇四

龍王山宝池寺と号すこの寺は、安永三(一七七四)年融通念佛宗の総本山大念佛寺の僧、弁応上人により開基。本尊に阿弥陀如来を安置。元は大坂の放出にあつたが、明治時代に茨木に移築された。寺宝の龍骨と称するものを八大龍王宮にお祀りしており、大護摩の日に参加できる。毎年二月三日には節分会が厳修



宝池寺

されこの日は大勢の信者などで賑わい、また毎年七月の第二土曜日の夜には地元の人々による提灯行列が登山し八大龍王に献灯される。

第七回 なにわ七幸めぐり 俳句大賞(投句無料)

主催/なにわ七幸会

(大阪天満宮、住吉大社、四條畷神社、大念佛寺、大融寺、今宮戎神社、四天王寺)

募集期間/平成十九年九月日から平成二十年三月三十一日まで(消印有効)

作品/主催する七社寺ゆかりの年中行事、風景、歴史などを素材とする未表の作品。応募要項/①応募料は無料です。②応募句数は一人につき七句までとします。七句を超えて応募は選考の対象とはなりません。③応募句で描写した場所を句ごとに付記してください。④氏名、郵便番号、住所、電話番号、年令をご記入のうえ、七社寺の境内に設置している専用はがき、官製はがき、封書、Eメールのいずれでも可。⑤小・中学生は、学校名も明記してください。(学校、学級単位での応募も受付します。※この場合、指導教諭名も付記してください。)

選者/宇多喜代子、大石悦子、後藤比奈夫、和田悟朗

大賞 四名以内 賞状 副賞 三万円の商品券

特別賞 八名以内 賞状 副賞 五千円の商品券

佳作 二十名以内 賞状 副賞 三千円の商品券

小・中学生奨励賞 若干名 賞状 副賞 三千円の商品券

発表式/平成二十年五月五日(受賞者に通知すると共に、各社寺の境内に掲示)

応募先/〒五四三・〇〇五一 大阪市天王寺区四天王寺一十二八 四天王寺内

お問い合わせは、電話〇六・六七七・〇五〇〇(内線三〇三)



融通念佛宗 総本山 大念佛寺のホームページがリニューアルしました。

インターネットで大念佛寺の情報をご覧ください。



<http://www.dainenbutsuji.com/>

大念佛寺年中行事ご案内(二月〜七月)

奏のうちに菩薩さまがお練りをされる儀式です。

●修正会 一月一日 午前五時

●融通念佛会 五月十六日 午前十一時

●百万遍会 五月十六日 午後一時

●河内御回在御院院 五月二十九日 午後三時頃

●中祖法上人御忌法要 七月七日 午後一時

●定例布教 毎月二十六日 午後一時三十分 (二十六日が日曜の場合二十七日に変更します)

●寒行 二月三日(節分) 午前八時

●元祖聖応大師御忌法要 二月二十六日 午後一時

●河内御回在御出光 三月二日 午前八時

●納骨諸靈追善法要 二月十七日、三月五日 午後一時

●再興大通上人御忌法要 三月五日 午後一時

●春季彼岸会 三月二十日

●写経奉納供養・筆供養 三月三十一日 午後一時

●万部法要 五月一日〜五日 午後一時

阿弥陀経一万部が読誦され、本堂の外側に橋を組んで、雅楽演奏

謹賀新年

融通念佛宗総本山 大念佛寺
管法主 倍嚴 良舜
宗務総長 吉村 暉英
教学部長 中江 慈光
庶務部長 岡田 眞澄
財務部長 北川 全宏

話せば心も軽くなる

大阪仏教テレビジョン相談室
仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶がお受けします。

月曜日：天台宗・真言宗・火曜日：臨済宗・曹洞宗・黄檗宗 水曜日：日蓮宗

木曜日：浄土宗・融通念佛宗 金曜日：浄土真宗本願寺派・真宗大谷派

(月曜日〜金曜日) 一月十四日〜十二月二十四日(八月休)

でんわ 〇六(六二四)五五一〇 午後二時〜五時迄